一言の大切さ

年配の女性が、全く知らない東北の地にお嫁に来て、３人の子供を育てていた二十代の思い出を、ある新聞に投稿していた。

……買い物帰りの夕方、２人の幼子の手を引き、背中には乳飲み子。母親は土手をとぼとぼ歩いていた。よほど疲れた顔をしていたのだろう。向こうから来た、作業服のおじさんがすれ違いに様に声を掛けた。

「母ちゃんえらいな。だけどもうちょっとの辛抱だよ。もうちょっとがんばれよ。もうすぐ楽になるからな」そう言っておじさんは通り過ぎた。

若い母親の目から涙が溢れて止まらなかった。知らない土地で、知らない人に掛けられたほんの一言に支えられてここまで生きてきた。
今の自分があるのはあの時のおじさんのあの言葉のおかげだ……

（『日本一心を揺るがす新聞の社説』より）

『雑宝蔵経（ぞうほうぞうきょう）』というお経の中でお釈迦さまは無財の七施という教えを説かれました。
これは、たといお金や品物がなくても、いつでもどこでも実践できる施しの道が七つあるという教えです。

その一つに「言辞施（ごんじせ）」というものがあります。

言辞施とは言葉の施しです。思いやりのあるる優しい言葉をかけてあげましょうということです。
これならいつでもどこでも出来ます。

投稿記事に登場したおじさんの一言は、まさに、お釈迦さまの説かれた「言辞施」というものです。
施す心の底にあるものは、「あぁ可哀想になぁ。辛いだろうなぁ。苦しいだろうなぁ」という、「同悲同苦（共に苦しみ、共に悲しむ心）」の心です。
それは菩薩の心でもあります。
あの時のあのおじさんは若いお母さんにとってまさしく菩薩さまだったのです。

ちなみに七つの施しには次のようなものがあります。

１・眼施（げんせ）・・・暖かい和んだ目で接していきましょう
２・和顔悦色施（わげんえつじきせ）・・いつもニコニコと接していきましょう
３・身施（しんせ）・・・体を使って奉仕しましょう
４・心施（しんせ）・・・思いやりの心を施しましょう
５・床座施（しょうざせ）・・座席を提供しましょう
６・房舎施（ぼうしゃせ）・・安らぎの場所を提供しましょう

この「無財の七施」を要約しますと次のようになります。

いつも
優しさに満ちたまなざしと
明るい笑顔を忘れず
心温まる言葉を掛け合い
人のためには労苦を惜しまず
深い愛情と思いやりの心を持って
喜んで席を譲り合い
安らぎの場所を提供しましょう

どうでしょうか。一つでも二つでも実行できたらいいですね。

平成２４年５月　「光明寺だより７７号」より